

# 奥会津だより



秋の陽を浴び、風を渡らせて乾燥を待つカヤの行列  
乾燥後はまとめられ、積雪に耐えて春を待つ  
蘇るのは来年の5月  
からむし畑を守る垣としての役割を担う

写真：菅家博昭

# 祖母から聞いた一枚の写真の話

三島町立三島中学校 一年 板橋 有沙



この写真は、祖母が小学三年生の時に、親戚十人ではじめて車に乗り、東山温泉の背あぶり山に登ったケール東山駅前の写真だそうです。

この頃は、自動車を所有している家庭は少なく、親戚が所有していた幌をかけたトラックでみんなで遊びに行っていたそうです。トラックに乗っているのが怖かったなあと話して

いました。

そして、道路はせまく、砂利道だったそうです。特に川井新道(川井地区から松原地区までの道)は、道路が悪くて、運転する人は十分注意して安全運転を心がけていたそうです。

現在の道路は広く、ほそになり、川井新道はバイパスになりました。だから、運転するのにとても便利になったなあ祖母は、話していました。

## 取材ノート

Q:この写真は、祖母が小学3年生の時とあります。

滋子さん:昭和32年頃の写真かな?

Q:この写真は、どなたが撮影したのでしょうか?

滋子さん:これはつねやあんなつあだべ。運転手だった。

Q:幌(ほろ)をかけたトラックというのは?

滋子さん:自家用車なんて無かったから、大竹土建のトラックに乗って行ったの。



Q:この写真を選んだ理由は? 有沙さん:今道路が新しくなってるから、昔の道路のことはわがんだと思っ



写真・文責:菅 敬浩

祖母:板橋 滋子さん (昭和23年12月生65歳) 孫:板橋 有沙さん (三島中二年) (平成12年6月生14歳)

Q:10人もの座席があったのですか?

滋子さん:無い、そんなの。(荷台の)地べたみたいなところに座って行ったの。川井新道なの七折峠なの、難所でおっかなかった。それで、砂利道でホコリだらけになるからって、母ちゃんが着替えを用意してくれたの。

Q:この写真を選んだ理由は? 有沙さん:今道路が新しくなってるから、昔の道路のことはわがんだと思っ

て若松まで行ったんだよって...

Q:有沙さんどうですか? 有沙さん:道路というのは、

舗装されているのが当たり前だと思っていたから、昔は大変だったんだなあ、と思いました。

滋子さん:西方から宮下に行くのに、鉄道のあのおつかない鉄橋渡つてどこでも歩いて行っていた時代だものみんなが。

## こども聞き書き百選

# 『じいちゃんありがとう』より

## おじいちゃんから聞いた田子倉ダム

只見町立只見小学校 五年 新国 理紗



わたしのおじいちゃんは、昭和八年七月五日生まれです。この写真は、昭和二十九年六月十日にとったものです。

今ダムがある所は村だったそうです。たくさんの人が住んでいたところにダムを造るため、みんな、只見や遠くの町に行つてしまった人もいるそうです。わたしの親せきも住んでいたとおじいちゃんも言っていました。ダムを造るためには、たくさんの人が来たそうです。その中には、囚人も来ていたそうです。わ

たしはそれを聞いてとてもびっくりしました。ダムは造るのに七年、十年かかったという。ダムを造るための人はいろいろな所に下宿していたそうです。わたしはそんな人がいて、食べ物にこまらなかつたのかなあと思いました。

おじいちゃんは、只見線はもと

## 取材ノート

Q:理紗さんは、昔の写真を見たことがありませんか?

理紗さん:いえ、今回の「聞き書き」が初めてでした。

Q:このダムの写真は誰が撮影したのでしょうか?

武勇さん:ああ、カメラ好きだから、私が撮ったものなんです。

Q:ダムを造る時に山と山の間にケール掛けてバケツつけてコンクリを下ろすところとかも撮りました。トラックで宮下まで行った時には、帰りにセメントを40も50も積んで戻ってきたりしました。



祖父:新国 武勇さん (昭和8年7月生81歳) 孫:新国 理紗さん (只見小6年) (平成14年5月生12歳)

Q:カメラは、どんなのを使っていましたか?

武勇さん:あれは、何だったか、二ゴンの前だから、国産の...

Q:カメラバッグを2つ持参して、歴代のカメラを紹介していただきました。

Q:ダムを造るので、工事に関係する人がたくさん来ていたのですか?

武勇さん:10年以上かかった工事ですから、店とか食堂とか雑貨屋とか出来て、村は全然変わってしまっ

た。他所から街がやってきたよ

うなものだから。昭和34、35年頃だなあ。

土地もあまりないから、米も野菜も十分には無いです

Q:孫の理紗さんがじいちゃんから話を聞いて書いたものが本になったのですが、どうですか?

武勇さん:気軽に話したつもりだったんだが、よく覚えてま

※只見線の線路が分断されていることについて武勇さんは「乗る人は少なくても、病院とかに行く人にとつては欠かせない大切な路線です」

写真・文責:菅 敬浩



## 奥会津の食材と料理



親芋(サトイモ)の  
じゅうねん和え

サトイモの親芋は大きい粘りが少ない。食べきれずに土に返すこともあるが、掘りたての親芋は蒸すとほっこりとして繊維質が気にならなくなる。一口大に切って蒸した親芋を、たっぷりのじゅうねん味噌(じゅうねんを軽く煎って丁寧に摺り、味噌・醤油・みりん・砂糖・酒で練る)で和えるだけ。

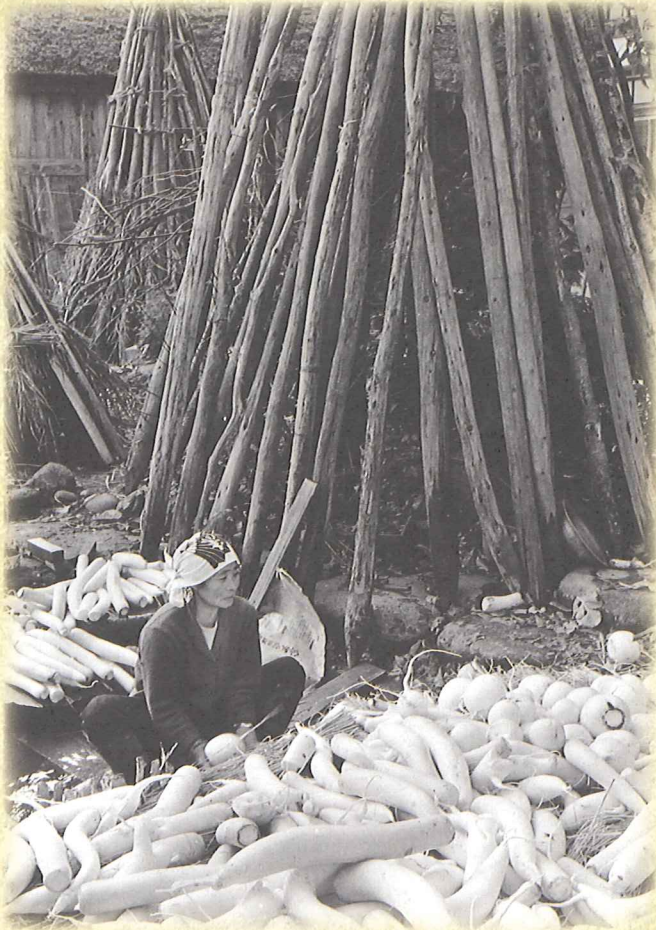
じゅうねんは荳胡麻(エゴマ)の通称で、奥会津では胡麻よりも消費量が多く、自家用に栽培している人も多い。秋野菜はとりわけじゅうねんととの相性がよい。

## 魔除けと衣装

### 下駄の墨



新しい履物は午前中に履き始めるのが良いとされる。慣れない履物で暗い道を歩くのは怪我のもとだという昔からの戒めがあり、ゆっくりと足に馴染ませ、転倒など避けるためだ。やむを得ず午後になってしまった場合は、履物の底の部分に墨を塗る慣わしが今も残っている。鍋墨や竈(かまど)の煤は火の神様の力が宿るとされて、それを塗りこむことで息災でいられるという。写真は、今、履いている下駄。



## 水場のある暮らし

写真・文 竹島 善一

稲架(はぜ、はざ)の用を果たした丸太は、庭木の冬囲いに転用される。

雪の前に食材の備蓄は必至である。漬物用であろう大量の大根、カブが秋の陽に輝いている。

根菜をこれだけに磨けるのは豊かな水に恵まれてこそのものである。庭先に水場(人物の後ろ)を持つ贅沢と利便がある。

(昭和50年11月 南会津町伊南地区)



### ムラサキシキブ

美しい実と優雅な名前が印象的な落葉低木。宝石のような紫色の果実を平安時代の才媛、紫式部になぞらえた。一説にはムラサキシキミからの転化とも。花も淡い紫色で淡麗。里山の林縁のなかで、ひっそりと実をつける。

## 奥会津の生き物たち アトリ



昨年と今年はアトリの当たり年。大群が上空を竜がうねるように飛ぶ様子は壮観。大挙して田んぼや畑に飛来し、数日後、一気に飛び去る。シベリヤで繁殖し、日本で越冬する冬鳥だが、奥会津では春と秋に通過する渡り鳥。

(鳥と花の写真・文:新国 勇)

# Q方言クイズ クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう?

「おっかなかった」 ヒント：P2. 聞き書きをご参照下さい。

正解者の中から抽選で2名様に、柳津町の「微細彫」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979

奥会津書房 宛

●応募締切：2014年12月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号84号で発表いたします。



◎82号「コワイ」の答え：「疲れる」

たくさんのご応募ありがとうございました!

# 読者コーナー

## お便り紹介

●会津のお米を購入していますが、そのお米屋さんがお米と一緒に「奥会津だより」を送ってくれています。今月号は酒井さんと祖母の取材がとても心に残りました。家族の過去と未来が繋がっていて、会津の人のぬくもりが感じられました。会津の宝は自然・歴史・人ですね。心が温かくなりました。ありがとうございます!  
(千葉県富津市 I.Sさん)

●私たちが便利さと引き換えに忘れてしまった時の紡ぎ方や心の豊かさを感じられ、毎号が待ち遠しく、人生の教科書として拝読しています。(栃木県小山市 S.Aさん)

●道の駅で奥会津だよりを見せていただきました。他のパンフレットの中で一番目に入り、引き立っていました。内容も昔を思い出す記事が現代にマッチし、新鮮に感じます。奥会津のよさが一段と増す「聞き書き」です。(須賀川市 Y.Sさん)

●家族の歴史、私は知らずにすごしてしまいい「もっと話を聞いておけたらよかった」と改めて思いました。これからも楽しみにしています。(府中市 I.Mさん)

奥会津だより  
定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuaizu.net

## 奥会津地域おこし協力隊



9月より奥会津振興センターにて勤務しております、奥会津地域おこし協力隊の田中 翔昂(しょうこう)と申します。現在は三島町に住んでいます。

地域おこし協力隊というのは、主に県外から地域に移住した人が、その地域の活性化を目的として活動していくための制度です。

最初に奥会津に興味をもったのは、私の好きな作家が愛する場所だと知ったためです。

しかし、何度か足を運ぶうちに、どうしても奥会津に住みたくなってしまい、この地域おこし協力隊の制度で、東京からこちらへ移り住みました。

現在は、各町村のイベント(例：柳津あかべこ祭り、檜枝岐新そば祭り)や、東京での物産フェアなどのお手伝いを主な業務にしな

がら、「奥会津」について、より深く知ることが出来るよう努力しております。

奥会津での生活も今月で3か月目を迎えますが、本当にこちらへ来て良かったと実感する毎日です。

東京では嫌だった車の運転も、この奥会津の風景の中ではたまたまなく好きです。

仕事終わりには、温泉に入りに行くことが楽しみというのも、その帰り道で空いっばいに広がる星空を見ることも、東京にはなかった喜びです。

まだまだ厳しいシーズンはこれからで、雪道のドライブではこんな悠長なことも言っていられないだろうな、と恐怖に駆られることもあります。冬は冬の魅力を感じていくことを確信して、日々を過ごしています。



## 奥会津イベント情報

11月中旬～1月中旬

日時	イベント名	町村名	場所	問合せ
12月20日(土)	只見スキー場オープン	只見町	只見スキー場	只見スキー場 ☎0241-82-2304
	喫茶キャンドル	只見町	只見スキー場	「100万人のキャンドルナイト・イン只見」実行委員会 ☎0241-82-2304
	会津高原南郷スキー場オープン	南郷地域	会津高原南郷スキー場	会津高原南郷スキー場センターハウス ☎0241-73-2111
	会津高原高畑スキー場オープン	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
	会津高原たかつえスキー場	館岩地域	会津高原たかつえスキー場	会津高原たかつえスキー場 ☎0241-78-2220
12月20日(土) 予定	尾瀬檜枝岐温泉スキー場オープン	檜枝岐村	尾瀬檜枝岐温泉スキー場	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
12月23日(祝・火)	フェアリーランドかねやますスキー場オープン	金山町	フェアリーランドかねやますスキー場	オープン前：道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334 オープン後：フェアリーランドかねやますスキー場 ☎0241-54-2022
1月1日(祝・木)	元朝詣り	柳津町	福満虚空蔵菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月1日(木)・2日(金)	お正月歓迎イベント	只見町	只見スキー場	只見スキー場 ☎0241-82-2304
1月7日(水)	七日堂裸詣り	柳津町	福満虚空蔵菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月14日(水)	鳥追い	三島町	桧原地区	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
	両原早乙女踊り	昭和村	昭和村両原地区	昭和村役場産業建設課 ☎0241-57-2117
1月15日(木)	歳の神	檜枝岐村	檜枝岐村内	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
	サイノカミ	三島町	町内各地区	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
1月中旬	南郷早乙女踊	南郷地域	和泉田、界、鶉巣地区	南会津観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
1月～3月	里山スノーシュートレッキング	伊南地域	南会津町多々石地区ほか	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-76-2517



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)  
発行日：11月15日発行(年6回発行) 事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター(奥会津振興センター内) TEL.0241-48-5525  
http://www.okuaizu.net webmaster@okuaizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源地域対策交付金の事業により作成されています。